

徳田の歴史—25

戸関遺跡(改 1)

この区域の発掘調査も 10/末に完了し、その後確認された主な遺構を紹介します。掘られた深さは約 70~80cm で平安時代(794~1185 年)の頃の地層と言われています。



丸く黒く見える大小の穴は当時の住居跡の柱の跡と思われ少なくともこの付近には9棟位の建物があったようです。

(写真の光関係で黒く見えています)



中央部の丸い柱穴の中心に当時の朽ちた柱の一部分が残っているのが見えます。(他にもいくつかの柱穴が見える)



中央部分に溝跡が見え斜め左下方方向に薄く続いているのが見えます。

(杭のある方向)

(遠方は中勢バイパス)

県埋蔵文化財センター、鈴鹿市史等参照